

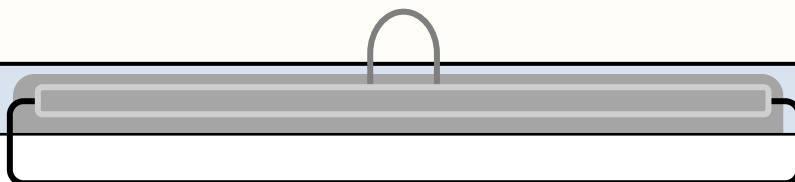
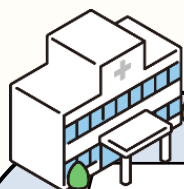


りぼん



「ジェンダー」は、男性だから・女性だからといった社会的、文化的な性差のことだよ。

～ジェンダーを超えて活躍する人たち～



人生はいくつかの節目となるライフステージに分かれており、幼少期や青年期、壮年期などがありますが、家族や友人はもちろん、**いろいろな職業**の人たちが関わって形成されています。

みなさんも人生を送る中で、特に**保育士・看護師・介護福祉士**はなじみ深い存在ではないでしょうか。

しかし、**保育士・看護師・介護福祉士**は、従来から女性従業者が多く、男性の割合が非常に少ないのが現状です。

厚生労働省によると、**男性保育士**は**約4%※1**、**男性看護師**は**約9%※2**、**介護福祉士**については、「第36回介護福祉士試験合格発表（参考）」において男性の合格者数が全体の**約30%※3**となっています。



今回の**りぼん**では、そんな女性比率の高い職業で活躍している男性に焦点を

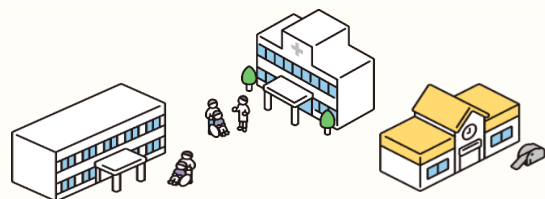


あて、現役で活躍されている男性の**保育士・看護師・介護福祉士**の方々と、新見公立大学の男子学生にインタビューを行いました。

※1 出典：厚生労働省「保育士の現状と主な取組」

※2 出典：厚生労働省「令和6年度衛生行政報告例（就業医療関係者）の概況」

※3 出典：厚生労働省「第36回介護福祉士試験合格発表（参考）」



～現役で活躍されている方々と新見公立大学の学生さんにインタビューを行いました～



神代認定こども園 川上さん

Q：保育士を目指したきっかけを教えてください。

A：小学生のころ、友達に妹が生まれました。その子とも一緒に遊んだり、お世話をしたりしているうちに、子どもがだんだんと好きになりました。将来、こんな仕事がしたいと思ったことがきっかけです。

Q：就職して、男性であるために苦労したこと・よかったことを教えてください。

A：昔は、保護者の方から「どんな職員なのか」と周囲に聞かれることはありましたが、子どもたちが抵抗なく接してくれるので、だんだんと保護者の方とも打ち解けていけました。

Q：同じ職を目指す男性の方へメッセージをお願いします。

A：男性が少ないということは覚悟してほしいと思います。そこに飛び込むのは勇気がいることですが、子どもたちが成長していく姿を1番に見られるというのはすごいメリットだと思うんです。大変な仕事ですが、それ以上にやりがいのある仕事です。



渡辺病院 中村さん

Q：看護師を目指したきっかけを教えてください。

A：幼少期に喘息で入退院を繰り返していました。その頃から看護師という職を身近に感じていて、自分の進路を考えたときに、やっぱり看護師がいいなと思ったことがきっかけです。

Q：就職して、男性であるために苦労したこと・よかったことを教えてください。

A：特段ありません。力仕事を任されることはありますが、嫌だと思ったことはありません。

Q：あなたの目指す将来像を教えてください。

A：病院には終末期の方も多いです。人生をどう過ごすかということも大事だけど、どう最期を迎えるかということも同じくらい大事だと思うんです。「家族に囲まれて」とか「好きなものを食べて」とか。患者さんが望む「最期」を迎えられるよう手助けできる看護師になりたいです。



老人保健施設くろかみ 山崎さん

Q：介護福祉士を目指したきっかけを教えてください。

A：昔、父親が事故で怪我を負い、家族で介護をしていました。そこで、自分の親も含めて誰かの役に立てればなと思ったことがきっかけです。

Q：就職して、男性であるために苦労したこと・よかったことを教えてください。

A：力仕事を任されることはありますが、そこは男性が頼られるところかなと思います。また、利用者の方には、男性の介護士に抵抗があるという方もいらっしゃいますが、そこは人間関係なので、だんだんと打ち解けていけます。

Q：同じ職を目指す男性の方へメッセージをお願いします。

A：最近は介護を必要とされる人が多いですし、重度の利用者の対応など男性が求められている場面もあります。ただ、介護が必要となることに性別は関係ありません。男性目線・女性目線の両方が求められる職業だと思うので、男女問わず目指してほしいです。



新見公立大学（健康保育学科3年） 西野さん

Q：健康保育学科に入学したきっかけを教えてください。

A：高校が商業系で、大学も経済学科などに行くことが多いのですが、あまり興味がわかなくて、自分のやりたいことを考えたときに保育がしたいなと思ったことがきっかけです。

Q：入学して、男性であるために苦労したこと・よかったことを教えてください。

A：そんなに多くありませんが、男女で価値観が違うということはやっぱり感じました。でも、今は仲がいいですし、男女の違いでの抵抗感というものはありません。

Q：将来への意気込みを教えてください。

A：頼られる人になりたいです。人柄や見た目というのも大事ですが、この人に頼れば子どものことは大丈夫だろうとか、何か確固たる正解を持っている保育士になれたらなと思います。



新見公立大学（看護学科4年） 草地さん

Q：看護学科に入学したきっかけを教えてください。

A：小さいころに泌尿器科に通うことが多かったんです。そこで関わっていたのが男性の看護師で、通院に対して少し気が楽になりました。自分も同性の患者さんに対して精神的な負担の軽減ができればいいなと感じたことがきっかけです。

Q：入学して、男性であるために苦労したこと・よかったことを教えてください。

A：女性が多い大学なので、交友関係というのは最初大変でしたが、今ではそういう緊張みたいなものはありません。あとは、男性が珍しいので「注目される」というのは感じましたね。

Q：将来への意気込みを教えてください。

A：男性看護職として求められることに対してしっかりと応えたいです。あとは、自分が将来「男性看護職のロールモデル」として同じ職を目指す男性を後押しできたらなと思います。



新見公立大学（地域福祉学科4年） 奥山さん

Q：地域福祉学科に入学したきっかけを教えてください。

A：中学校の職場体験で高齢者施設に行ったことです。利用者の方に笑顔になってもらえたことと、利用者の方がいろんなことを教えてくれて勉強になるなと感じたことがきっかけです。

Q：入学して、男性であるために苦労したこと・よかったことを教えてください。

A：女性が多いので最初は雰囲気にはなりましたが、グループワークなどで話す機会が増えてきて、今では全然気にならなくなりましたね。

Q：将来への意気込みを教えてください。

A：自分の家では生活できなくなった方が施設に来られます。人生の後半に新しい生活を始めるのは苦労すると思うんです。やっぱりそこで安心して笑顔で生活できるような介護をしたいです。



新見市の就職支援



**新見市では、市内への定住や市内事業所
などへの定着の促進に取り組んでいます！**

新見市移住定住奨励ポイント

新規学卒者や転入者で、市内または通勤可能な市外事業所に新たに就職した方に移住定住奨励ポイント（にーみんポイント：最大20万）を交付します。

※交付には要件があります。

移住・定住推進課 TEL：0867-72-6114

新見市市内就職奨励ポイント

市内事業所に新たに就職した方に就職奨励ポイント（にーみんポイント：最大40万）を交付します。

※交付には要件があります。

商工観光課 TEL：0867-72-6137

看護師定着奨励金給付制度

市内の医療機関に就職した看護師へ最大50万円の奨励金を給付します。

※給付には要件があります。

健康医療課 TEL：0867-72-6130

介護職員等定着奨励金給付制度

市内の介護事業所に就職した介護職員へ最大50万円の奨励金を給付します。

※給付には要件があります。

高齢者支援課 TEL：0867-72-3148

福祉職員定着奨励金給付制度

市内の福祉サービス事業所に就職した福祉職員等へ最大50万円の奨励金を給付します。

※給付には要件があります。

福祉課 TEL：0867-72-6126

いかがでしたか？

男性が得意なこと。女性が得意なこと。
その違いはあるかもしれません。

世の中にはいろいろな職業があります。

**お互いの得意なことで助け合い、
男性も女性も同じように輝ける職場が増えると素敵ですね。**

インタビューはまだまだ続くよ！

つづきはこちら→



編集後記（編集委員：谷岡 奈央）

今回のりぼんは、地域の方々へのインタビューをもとに制作しました。

かつては「保母さん」「看護婦さん」と呼ばれ、女性の職業というイメージが強かった保育士、看護師の方や、介護福祉士、大学生の方々にスポットを当てました。

保育士、看護師、介護福祉士の職場は、全国的に依然として女性中心の状況が続いていますが、一方で男性の活躍も少しずつ増えてきているようです。こうした変化は「男性だから」「女性だから」という固定概念をなくし、一人一人の個性や能力を尊重する「ジェンダー平等」の視点が進んでいる証拠とも言えるでしょう。

新見市においても、子どもたちが健やかで文化的に育つ環境づくりや、地域医療・福祉の充実には、こども園、大学、病院、福祉施設等の協力が不可欠です。男女が性別に関わらず、その仕事に情熱をもち、能力を発揮できる。そんな社会を実現していくことが私たちの願いです。

このりぼんを通じて、皆さんが日々の生活の中で感じる「当たり前」の中にある「ジェンダーバイアス」に気づき、より良い新見市を築くきっかけになれば、りぼん制作の冥利に尽きます。

【問い合わせ先】新見市男女共同参画情報紙編集委員会事務局（総合政策課内） ☎72-6143

発行/新見市 編集/新見市男女共同参画情報紙編集委員会